



モンゴル・ウランバートル市

モンゴル職場の主役？ 女性キャリアが多い理由

世界銀行タスク・チーム・リーダー 鎌田卓也

WATCH FIRE

【開発途上国の明日】



これは世界銀行が融資するウランバートル市の水道プロジェクトの会議である。建設工法や入札手続きの問題点について議論中だ。

正面の男性たちは世銀のチーム、左手奥の3人の女性は同市のプロジェクト管理部の部長と担当者である。そして、右手前の女性たちは市営水道会社の部長とコンサルタントだ。彼女たちは20年以上の実務経験を持つ土木工学や財務会計などの専門家で、英語やロシア語も話せる一方、主婦として家事もこなす。

モンゴルの官公庁や会社では女性の管理職は珍しくない。管理職の男女比率はおよそ6対4。日本では13対1程度だ。専門職では女性の就業率が男性を上回る。小学校教師の9割、弁護士は7割は女性である。

これには社会主義時代の男女均等政策などの理由があるが、男性の進学率も要因だ。男子は幼い頃から放牧などの仕事に就く。高校での男子の割合は3割、大学では4割にすぎない。男社会といわれる同国では、逆に女性に教育を受けさせ就職を促す親が多い。市場経済へ移行し、男性の安定雇用が保証されぬ現在、この傾向は強まっている。

優秀な女性たちに支えられているモンゴルの職場。が、若いキャリアウーマンの悩みは、釣り合いの取れた結婚相手がなかなか見つからないことだそうである。(写真も筆者)